

1. 自分の研究生生活を振り返って：自己紹介を兼ねて

同志社大学博士後期課程 3 年の任貞美です。研究生生活を振り返ってという話題で話をするように依頼されたとき、自分はまだ研究者として皆様の前で話をできるほどの力量をもってないと思い、恥ずかしい気持ちになります。また、三島先生を含めて優秀な先生たちと同じ場所で同じ内容で話をするとということで気が重くなりますが、一方では、光栄にも思っております。研究者になることを目指している 1 人の院生として、私の研究生生活での思い出や信念を述べさせていただきたいと思います。

先に簡単に自己紹介をさせていただきますと、学部は韓国の慶尚大学という国立大学を卒業して、3 年ぐらい、清州市老人総合福祉館で社会福祉士として働きました。高齢者の虐待相談や現場調査を行う相談員として入社しましたが、人事異動で高齢者の生涯教育を担当する福祉館に勤めることになりました。主な業務は高齢者の生涯教育や奉仕活動を支援し高齢者の力量をうまく活用して社会に参加できることをサポートすることでした。その後、エビデンスに基づいた実践を行いという気持ちを込めて、日本社会事業大学の修士課程に進学し、現在同志社大学に所属することになりました。

私の研究生生活は、すごく短いです。博士課程から 1 人の研究者扱いをしてくれるという話を聞きましたので、あえていいますと今年までに 3 年目となりますが、修士での研究生生活は現在の私の根元になるため、そのときの研究の経験や感想を振り返って述べたいと思います。研究テーマは高齢者虐待の定義の再構築に関するものです。現行の高齢者虐待防止法で対応できない虐待に準ずる人権侵害行為や不適切なケアなどを準虐待という概念を導入することで、より虐待の実態をうまく反映して支援を行うことができるという観点から研究を進めました。高齢者施設で 365 日一日中何事もせず椅子に座っている高齢者を拝見して、これがはたして普通の生活といえるのかという疑問を持つことになりました。要介護度が高くても高齢者が願っているニーズ、すなわちプライバシーが保たれ、かつ休める生活空間がほしいことは当然のことで、メリハリを持った生活が送れるような支援を願うことも当然のものと思いました。こういった思いが修士で行った研究はもとより博論にも続いております。

2. 現在の研究テーマ

高齢者虐待予防モデルを構築することです。準虐待や虐待が発生するリスク要因に着目し、その中でもとりわけ準虐待が虐待に発展することに最も影響を与えるリスク要因を探ることを目指しています。これを通して、同様の介護環境でも虐待が発生していない施設、と虐待が発生している施設、準虐待は発生していても虐待は発生していない施設の差を明らかにすることができ、より効果的な虐待予防モデルを構築することができます。

3. これまで苦労したことや工夫したこと

・外国人留学生として日本語の正確さはいつも気になるところです。ですので、日本語のチェックをしてくれる友人をつくることは、なにより大事で苦労しているところといえます。日本語チェックのついでに自分の研究に対する弱点やコメントもしてくれる友人を探すことも大事だと思います。

・私は大量のアンケート調査を行っているため、だれよりも発送作業に手間やお金がかかります。博士後期課程になり修士の時より研究費を多く使えるようになりましたが、むしろ博士研究の郵送作業がより辛かった気がします。日本社会事業大学の時には、研究費もなく、日本語で論文を書くことすら未熟でしたが、いつも助けてくれる先生、友人、先輩、後輩がいました。こういったネットワークが現在にも続いており、無事に博士論文を書くことができる原動力になっています。困っているときに助けてくれた人たちの温情は一生忘れられない宝物です。

・また常に自分の研究をだれかと話すことができる機会を増やすことが、自分の研究を整理し、多くの疑問を解決することができるコツだと思います。議論をすることを通して自分の考えや思いを整理することができます。よって、研究を進めるにあたって何より回りに人が多くいることが大切であると思います。その意味で韓国にいる恩師を含めて中島健一先生、博士の指導教員である埋橋先生や山田先生にも御礼を申し上げたいです。

4. 後輩へのアドバイス

研究をすすめるなかで多くの困難に遭遇すると思われませんが、そのときごとに自分を支えてくれる人たちの思いを忘れず、そして自分がやりたい研究のもつ意義を考えながら諦めないでほしいです。